

講義名	観光コミュニケーションB		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

グローバル社会の進展に伴い、海外へ旅行する日本人、そして、海外から来日する外国人観光客の数は増加の一途をたどっている。また、日本における観光産業の充実を図るための諸施策も大きな課題となっている。特に、旅行・観光・ホテル・レストランサービス等の業種にあっては、英語の運用能力だけでなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロの養成が急務であり、このような能力をもつ人材への高い需要がある。本コースでは、「ツーリズムやホスピタリティビジネスなどに興味のある受講生が明確な目的を持ち、ツーリズムのプロとして必要な英語を楽しみながら学べる授業を展開する。」「英語を学ぶ」というよりも、「英語で“観光業務を学ぶ”」という姿勢で取り組んで欲しい。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) 「旅行業」「航空業」「ホテル業」といった観光産業に必要な英語表現を習得する。
(2) 観光コミュニケーションに必要なリスニング、スピーキング、リーディングのスキルに加え、観光産業に携わる際に必要な基本的な心構えと知識を学ぶことができる。
(3) クラスメートとのペアワークにより、実践的な英語コミュニケーション力を養う。
(4) 演習を通じて、文化の多様性を理解し、受容できる異文化コミュニケーション力を養う。

提出課題

観光英語検定2級に関する演習問題、テキストの内容に沿った担当者作成のワークシートの課題、等、さまざまな課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

観光英語検定の演習問題を解く課題では、答え合わせの際、理解が難しいと思われる英語表現について解説する。この課題に関する小テストを実施。受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導する。

評価の基準

(1) 課題 (30%)
(2) クイズ (30%)
(3) 最終試験 (30%)
(4) 授業態度 (10%)

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準すべての項目を総合して行うが、(1)/(2)/(3)のうち一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
(2) 講師が入室したときに教室にいない場合は遅刻者とは見なす。交通機関の延着など、特別な理由がない限り遅刻厳禁。
(3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定回数以上の欠席の場合、単位は取得できないので、各自、自分の状況を把握しておくこと。詳細は第1回目のガイダンスで説明。
* 第1回目の授業は授業内容やコース内で遵守すべきルールに関するガイダンス、その他、履修にあたっての重要な注意事項を伝えるため、必ず出席すること。

教科書	.English for Tourism Professionals.	Reiko Fujita	National Geographic	¥2,400	978-4-86312-356-4
-----	-------------------------------------	--------------	---------------------	--------	-------------------

プリント資料及び参考文献

観光英語検定の課題資料、テキストの内容を理解するための補助教材としてワークシートを授業内で配布する。

授業計画

回	授業計画
1	Course Guidance
2 & 3	Unit 8 Working at the Boarding Gate
4 & 5	Unit 9 Offering In-flight Services
6 & 7	Unit 10 Giving CIQ Information
8 & 9	Unit 11 Taking a Room Reservation
10 & 11	Unit 12 Welcoming Guests
12 & 13	Unit 13 Helping Guests
14 & 15	Unit 14 Dealing with Complaints

* 毎回の授業内容は進捗状況により、次週に持ち越すことがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：観光英語検定の課題への解答、テキストの補助教材として担当者が作成したワークシートの設問への解答、次回のクイズの準備（2時間）
復習：その日に学習した内容の復習（ワークシートの添削箇所の確認、テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む）（2時間）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向の授業の実施：演習活動の際に各受講生を指名し、解答をさせ、フィードバックや解説を行う。ペアワークの発表の後にパフォーマンスに対して助言をする。

実務経験の有無及び活用

備考

テキストを持参せずに受講した場合は単位は認定されない（コピー持参は不可）。第1回目の授業までにテキストを購入すること。受講生の真摯、かつ、積極的な参加を希望する。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。